

## 報告書目次

- 一、一般情報概観.....
- (一) 世界資本主義の情勢
- (二) 日本資本主義の情勢
- (三) 我國労働運動の情勢
- (四) 全國労働の運動概観
- 二、本部會務報告.....
- (イ) 第三回全國大會
- (ロ) 中央委員會報告
- (ハ) 常任執行委員會其他
- (ニ) 指令及通達其他
- 三、各部活動報告.....
- (一) 争議部—(イ)争議の一般的傾向—(ロ)争議の質的轉換—(ハ)全國労働の争議—(ニ)全國労働の争議情勢—(三)組織部—(イ)我國労働組合の組織—(ロ)全國労働の組織活動—(ハ)全勞内部の産別整理—(ニ)全國労働の組織現勢—(三)教育部—メニデー前の教育—夏期教育講座運動—労働學校、其他
- (四) 出版部
- (五) 青年部
- (六) 婦人部
- (七) 法律部
- (八) 調査部
- (九) 國際部—第十四回國際労働代表選出問題—、日印通商問題—、其他
- (十) 政治部—(イ)組合の政治方針—(ロ)社會大衆黨との協力—(ハ)選挙闘争—(ニ)其他
- 四、時局闘争報告.....
- (一) 戦線統一運動
- (二) インフレ闘争
- (三) 失業反對闘争
- (四) ノーデー闘争
- (五) 労働立法獲得闘争
- (六) 其他
- 五、特殊事項報告.....
- (一) 消費組合並に共済運動
- (二) 全國労働統一實施
- (三) 日本労働組合會議情勢
- (四) 労働立法諸案
- (五) 人事移動
- 全國労働昭和八年度役員.....
- 附 表.....
- (一) 全勞各組合争議原因別
- (二) 全勞加盟組合争議成績一覽
- (三) 加盟組合現勢一覽

## 一、一般情勢概観

### (一) 世界資本主義の情勢

昨年十月全國労働第三回大會以來今日までの一年間は、恰も、世界恐慌が一九二九年秋勃發して以來の第四年度に相當する。この一年間に於て、ソヴェート・ロシアを除く爾餘の資本主義世界經濟は、恐慌の擴大深化のうちに、生産力は漸減し没落の過程をたどつてゐる。この行詰りを糊塗するため資本主義各國は、競ふて、インフレーション政策を強行し空景氣を煽つてゐるが、これも人爲的な通貨政策によつて、一時的に物價吊上げ、株價の上昇をもたらすに過ぎず、大衆の購買力は却つて低下し、市場は益々狭くなり生産は益々收縮する結果を招來してゐる。

市場の行詰りは、更に、資本主義各國間の國際的競争を激化した。各國の資本家階級は、國內の大衆の犠牲によつて、外國市場にダンピング(投資)を強行し、それが關稅戦争を激化し、資本主義各國の對立は極度に露骨となつた。この危機を打開するために、本年六月世界經濟會議が開催されて、國家對立は公然たる姿を現はし、世界はプロツク經濟(アメリカ、イギリス、中歐、日滿、ソ聯邦)化の段階に立入つた。

この傾向は、政治的には、國家主義、民族主義意識の高揚によるファツシヨ勢力の擡頭、一九三五、六年を目標して戦争準備の強行となり、ドイツに於けるナチスの政權確立をはじめ凡ゆる形態のファツシヨ政權が出現してゐる。その間にあつて、労働運動は、著しい壓迫を蒙り、各國共に受難期に達看してゐる。しかし、大衆の生活不安の増大と資本主義の矛盾から來る社會的激變は各所に於て、次の労働攻勢の期近きを示してゐる。

### (二) 日本資本主義の情勢

日本に於ても、恐慌は底知れずに進んでゐる。滿洲事變勃發を契機として、非常時に突入して以來滿二年。内には、農村の窮乏、失業の激化、大衆生活の破壊、思想の動搖は依然として進行し、外には、日滿プロツク確立の強行手段としての國際聯盟の脱退、日米、日英、日ソ等の對立の激化、東洋印度、アフリカの各市場に於ける日英經濟戦争の激化は諸種の急迫せる國際關係を惹起してゐる。これらの内外の急迫せる事態は、軍事インフレの強行、安貸銀を武器とする海外ダンピング、資本家的統制經濟の強調となり、眼前に進行したゐる。

政治的には、日本主義、國家主義によるファツシズムの氣運が益々濃厚となり來り、内外の社會情勢の急迫と共に、この勢力が集中統一され成形化されんとしつゝある。この勢力